



行動しよう・前進しよう！ Weekly Report

2016-17 年度 第 29 号

第 2319 回例会

4 月 母子の健康月間

日 時：平成 29 年 4 月 26 日（水）**会 場**：例会場**司 会**：SAA

本間委員長

開会点鐘

小川副会長

斉 唱：ロータリーソング「我等の生業」**お客様の紹介**

小川副会長

大野 晶子様 長唄先生
 福原 百恭様 篠笛先生
 真見 菜穂子様 体験入会

会長挨拶

小川副会長

きょうは文化に親しんでいただいて、喉を充分なら
 してお帰りいただきたいと思ひます。

幹事報告

喜連(元)幹事

●IM 実行委員会 最終報告会

日時 5 月 15 日（月）18 時

場所 立川グランドホテル

出席 近藤委員

●5 月のロータリーレートは、1 ドル 110 円です。

●次の例会は祝日が入りますので 5 月 10 日です。

委員長報告**ニコニコBOX**

秋山親睦活動委員

●**小川副会長** 本日の卓話の先生、大野晶子様、福原百恭様にはお忙しい中お越し頂きましてありがとうございます。普段なじみのない長唄とのこと、日本文化に興味を持てるようじっくり拝聴いたします。又、体験入会の真見菜穂子様お待ち申し上げます。

●**喜連元昭幹事** 本日の卓話講師の福原百恭様、長唄師匠の大野晶子様の講座を楽しみにしております。また体験入会でお越し下さいました真見菜穂子様、今後

も引き続き参列頂きます様大いに期待しております。

●**近藤会員** 大野様、福原様、本日の卓話をお引き受け下さいましてありがとうございます。楽しませていただきます。真見様、体験入会御苦労様です。

●**稲村会員** 日本伝統文化である長唄の指導者であります大野様ですが、とても気さくな方で尊敬申し上げます。又、お互い足腰丈夫なうちに麻布をご案内下さいます様、お願いいたします。

ニコニコ BOX 合計 8,000 累計 1,441,000 円

出席報告

佐伯出席奨励委員

4 月 26 日 在籍 48 名中 出席 32 名

前々回(4 月 12 日) の出席率 97.67%

閉会点鐘

小川副会長



遠藤常臣会員の
トウモロコシ
(ピクニックコーン)
6 月末収穫



RI 第 2750 地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会長 内山健治 幹事：喜連元昭

例会日：毎週水曜日 例会場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事務所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL: kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB: http://kunitachi-rc.com/

会報委員：大庭敏也・秋廣道郎・遠藤常臣・伊藤達弥

長唄の世界



長唄 大野晶子先生
近藤佳子会員

講師紹介

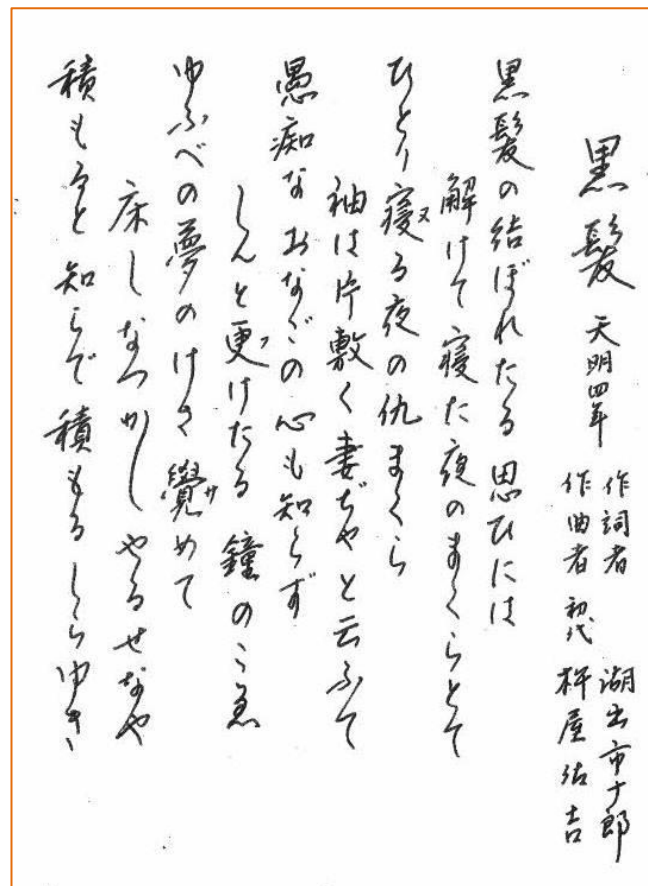
きょうは伝統芸能を継承していかなくてはいけない
と思い、長唄の先生をお呼びしました。お二人ともに
東京藝大をご卒業されていて、大野先生は国立に
お住まいです。

長唄について

大野晶子

長唄といいますが堅苦しく考えないでください。
演歌の親分だと思ってください。江戸時代の中頃に歌
舞伎の伴奏として出来たのが長唄でございます。三味
線を弾きながら唄うことはないです。明治時代くらい
になると歌舞伎からどいて単独での演奏が流行ってき
ました。そのまま現代に至っています。お家元が何人
もいらっしゃいます。私の所属は藝大を卒業した者で
作っております「東音会」一番新しい団体です。つい
この間 60 周年を迎えたところです。

国立市では、芸小ホールができてから、年に1回子
どもさん対象に1日3回のステージをしています。長
唄はとても長いのですが、一番短い曲「黒髪」を聞い
てください。4分くらいです。



笛 福原百恭先生

「黒髪」 長唄 デジタル大辞泉より
初世桜田治助作詞、初世杵屋佐吉(きねやさきち) (地
歌としては湖出(こいで)市十郎)作曲。天明4年(1784)
江戸中村座初演の歌舞伎狂言「大商蛭小島(おおあきな
いひるがこじま)」で、伊東祐親(いとうすけちか)の娘
辰姫が恋しい頼朝を政子に譲ったあと、ひとり髪をす
きながら嫉妬(しつと)に身を焦がす場面に用いられた。

「宵待ち草(よいまちぐさ)」 篠笛
日本の歌曲/恋多き竹久夢二が少女に寄せた儂き思い
「待てど暮らせど来ぬ人を」の歌い出しで愛唱される
『宵待草 よいまちぐさ』は、大正浪漫を代表する画
家・詩人の竹久 夢二(たけひさ ゆめじ/1884-1934)
による詩歌を原詩とする抒情歌。

「娘道成寺」 長唄/篠笛 世界大百科事典より
初期の江戸歌舞伎では陽気で軽快な二上り調子の曲
(例《七つになる子(七つ子)》《馬場先踊》《槍踊》)
が作曲されていたが、享保・宝暦期(1716 - 64)に上方から
歌舞伎俳優に伴われて東下した長唄演奏家によって
上方の優雅な三下り調子が盛んにとり入れられた。また
当時、歌舞伎舞踊は女形の専門芸とされていた関係
で、長唄も女性的な曲(例《鷺娘(さぎむすめ)》《娘
道成寺(むすめどうじようじ)》《執着獅子(しゅう
ぢやくじし)》)が作曲された。

歌詞 花の外には松ばかり 花の外には松ばかり
暮れ染めて鐘や響くらん
鐘に恨みは数々ござる初夜の鐘を撞時は
諸行無常と響くなり
後夜の鐘を撞く時は是生滅法と響くなり
晨朝の響きは生滅滅已
入相は寂滅為楽と響くなり聞いて驚く人もなし
我も五障の雲晴れて 真如の月を眺め明かさん